

## 平成 22 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

講 座	言語情報論
専門科目 2	日本語試験

問題 1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問 1 下線部の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 書き連ね    2 知的形成過程    3 抱えている    4 涌いている

問 2 波線部の語の本文中での意味を日本語で説明しなさい。

- 1 勝手に    2 なお    3 さっぱり

問 3 破線部「送りつけてきて」とほぼ同じ意味で使用されていることばを本文中から抜き出しなさい。

問 4 二重下線部「「対話」というのは、そういうものではないからだ。」について、

- ① 「そういうもの」とはどのようなものか。具体的に説明しなさい。  
② 筆者が考える「対話」とはどのようなものか。説明しなさい。

問題 2 次の各文は、何らかの点で現代日本語として正しくないか不自然である。その理由について詳しく説明し、正しい文に直しなさい。

1. 昨日、母親が私に野菜を送った。
2. あいつなんてにこの問題は解けない。
3. 子供はこの本は読まないべきだ。
4. 今度の試合はたぶん日本が勝つじゃないですか。
5. この説を信じている人はあまりに多くない。

6. 申し訳ありませんが、明日拙宅をご訪問してください。
7. 午後になって、気温が上がりはじまりました。
8. 今日は腹の調子が悪いので、何でも食べたくない。

問題3 日本語には「化」「未」「さ」という接辞がある。これらを用いた派生語をそれぞれについて10語ずつ作成しなさい。

- (例) 国際化、…  
未解決、…  
美しさ、…

以上

注：問題1の「次の文章」とは、内田樹『子どもは判ってくれない』（文春文庫）の76～77頁から抜粋したものである。